いわき民報

平市田町48 電381・176
編集兼印刷發行人 田原登
日刊 但月曜を除く
定價1月40円 1部1円50錢
發行所 いわき民報社

賑う平名物盆踊り
好天氣に惠まれて大當り

氣遣われた雨模様もはれて八日夜の平名物盆踊りは初日にふさわしい盛況だつた、昨年は市内に四ヵ所も櫓が立てられたが今年は二ヵ所だけなので驛前も本社前も所狹しと踊り子が立ち揃いスピーカーを流れるメロデーに和して威勢よく踊り子の列は續き驛前は十一時頃終ると踊り足りない連中はどつと本社前に雪崩込み一層の賑いだ、夏の夜空に高く響いた太鼓の音はかくて十二時まで續き漸く終了した 今九日は盆の中日でもあり前夜に増して賑やかなことであらう

盆踊り供養施我鬼
白銀青年の催し感謝さる

平市白銀町青年會の新盆供養施我鬼は既報の如く舊盆十四日午後八時から、平驛前廣場の同青年會の盆踊りやぐら下で擧行した、市長代理阿部助役、馬目縣議、井上消防署長、高木市議、野澤本社長等臨席多數の遺族が參列設備祠に施我鬼を綴り、同青年會の和讃踊りや甚太踊りなどあつて賑やかな盆踊りに入つた
踊りやぐらに市内で故人となつた新盆の戒名を掲げ、その下に佛前を供えて靈魂を迎える焚火を焚し、定刻鹽田青年會長開會の挨拶を述べ、僧侶の讀經があつて小名川副會長弔文を朗讀、阿部助役の挨拶、參列者一同焼香、遺族代表丸山氏の謝辭があつて式を閉じたが盆踊り行事に點景を添え、有意義な催しとして遺族から感謝されている

昨夕五名歸郷

ソ連第二次引揚第七船明優丸の本郡歸郷者十五名中左の五名は八日十七時五十七分平着列車で歸郷した、又全船と同様舞鶴港に於て上陸拒否問題を起した第九船高砂丸き還者十一名も一兩日中にき郷の豫定である

△八日のき郷者、大木正（湯本）大竹金吉（勿來）織笠臺一（勿來）宇佐美重雄（好間）大和田芳太郎（赤井）

第三次信濃丸乘員
郡下の歸郷者五名

ソ連引揚第二船團は高砂丸のき還者の上陸を最後として引揚の事務を完了したが、續いて第三次船團第一船信濃丸のき還者は七日舞鶴に上陸、本郡のき郷者は左の五名である
△長谷川平雄（勿來）下遠野惣平（內郷）早坂留吉（內郷）安島正（田人）佐藤今朝治（湯本）

東北配電
十三日移轉

東北配電平營業所の事務所は既報の如く過般落成式を擧げ移轉準備を進めているが、十二日をもつて完了し、十三日正午から大町十番地の新事務所で業務を開始することになつた

磐崎村上湯長谷 湯本驛より西へ一、五キロ
必らず治る 神經痛 性急婦人病
ウバの湯
溫泉と鍼灸療法
宇野整骨鍼灸療院

平事件に鑑みて
警察法改正へ
參院調査團一行語る

平事件並に相前後として縣下一月に發生した事件の實地調査のため來福中の參議院地方行政委員（同委員會內警察法改正小委員長）鈴木直人、同（同委員）岡田喜久治の兩氏は六日午後一時半着の列車で來平、即刻平市署長室に平市長、市會議長、市署長、公安委員長、驛長、商工會議所會頭、內郷町長、同町會議長、同公安委員長其の他民間代表者數氏を招き事情及び意見の聽取を終つた後在平記者團と會見、來平の目的並に警察法改正のアウトラインに就き要旨次のような談話を發表した

我々が實地調査のため來平した目的は現在參議院地方行政委員會で愼重審議中の警察法改正問題就中自治体警察の問題並に近く全國的に派生する恐れのある平事件同様の事件に對處するための治安對策樹立問題の參考とするためである、今迄福島、郡山で事情を聽取し又本日當地で事情を聽取したが痛感することは國家權力に斗爭を試みこれを無視しようとするような暴力に對し自治体警察が無能であるということである、更に我々が當地に來て驚いたことは國家權力に對する斗爭という重大な觀點から見る時は平署よりもむしろ內郷署の方が遙かに大きな問題であるということである、兎角縣下一連の事件に關し背後的なことは言えないが表面的には一齊に行われて警察力の分散化を計つたと言えると思う、我々は此等の事件に關し色々參考になることを得たが更に愼重に調査の上委員會報告しようと思つている。一方警察法改正問題就中自治体警察の問題に就て言えば現在治安維持不充分、經費の過重の二理由に基き全國的に廢止論が起つているが、我々としては飽く迄國家中心の反動的なものにすることは避け國民の信託を受けている民主的警察を作り出すことを根本方針とし前の廢止理由を考慮し 1・七大都市にのみ設置 2人口十万以上の都市に設置 3人口五千以上の市町村で住民の一般投票により設置 4縣中心の自治体警察とする四つの方法を考えている、兎に角現在の自治体警察に於ては犯人の逮捕情報の提供等連絡の面で不充分であり更に人事關係がうまく行かず必然的に警察の能力を低下し又數は充分ではあるが一騎當千には遙に縁遠い等缺陷多くこれらは總て制度の缺陷にあると思う、又經費の問題でも現在入場税を移管警察費に充てなお地方分與税の中にもこれを含めているがこれだけでは今度の事件のような場合到底役に立つとは思われず所謂豫算の機動性即ち豫算を貯えこれを大事件等に際し流用する等のことが必要であると痛感した、要するに今度の調査で得たことは充分參考に供し度いと思つている

なお參議院調査團一行は引續き民間其の他の意見を聽取した後七日午前十一時發の列車で歸京した

姙娠中絶の申請が七件
十二日審査會

平地區優生保護審査會は十二日午後一時から平保健所に開き三日から九日までの間に人工姙娠中絶の申請七件に對し適正審査を行う、申請理由の內譯は胸部疾患二、弱度のつはり二、經濟上の困窮三となつているがこのごろ優生保護法も一般に漸く認識されて來ており七月下旬頃から八月に入つてぐつと申請が增加、毎日一件の割で申請が來ているなお今度の申請者のなかには殆んどがサラリーマン階級が多いが農家からも經濟上の困窮を理由に申請が多くなつて來ており農家の金詰りを窺わせている

川角氏來平

郷土の生んだ本邦實業界の雄東洋繊維社長川角五郎氏は墓參のため八日來平、十日夜行で歸京の豫定

三千の高校生を動員
十二日 引揚援護運動の協議

平市學生連盟では三千余名の市內高校生の會員を動員しソ連引揚者の援護運動を起そうと十二日午後一時より理事長秋山四郎君（平工高）ほか三名が市役所で學校並に愛の運動協議會側と今後の方針について具体的に相談することになつたがこの打合會の結果、授業中に引揚者援護出動した學生は特に學校側も登校したものと認めることになるものと見られている

嫌疑濃厚で四名起訴
起訴合計が八十名

福島地檢平支部では九日平事件容疑者として次の四名を住居侵入並に騷擾罪容疑で起訴した
▲助勢＝平架好男、小林好幸、宮崎昭▲附和隨行＝中村堅作
なお九日現在までに起訴したものはこれで八十名

六名を拘留

福島地檢平支部は九日錦町吳羽化學から平事件容疑者として逮捕した次の六名の拘留訊問を行い平拘置所及び平市署にそれぞれ身柄を拘留した
◇國分秋男、宮崎三三、猪狩誠、阿部浩三、宍戸弘

疫痢で死亡

植田町北台町長谷川洋子ちやん（二ツ）は七日疫痢と決定八日死亡

首の日も職責果す
平車電支區に咲いた美談

過般の國鐵行政整理で今どきに珍しい美談が平車電支區に咲いた同所には整理されたもの十五名あつたが內平市平窪字曲田明智正二（一八）君は技工として二十年から奉職していたが滿十八歲に滿たない爲勞基法によつて深夜業に從事出來ない爲め首切りの對象に上り馘首された、處が七月五日辭令と退職賜金を出された際同僚の大部分の者は憤然としてその場を立ち去り後おも見ないと云う有様であつたが明智君は政府の方針なれば万止むを得ないと同僚が立ち去つたあともその日一日は仕事に從事、立派に職責を果し夕刻同支區長小野寺新藏、同支區技工長富安竹松兩氏を始め先輩同僚に挨拶してかえるのであつた、斯うした人間としての美しい行爲に同車電區內の人人の胸を強く打ち水戸車電區の耳にも入つたので感激、今後一年の間には優先的に採用すると云うことになつたが、これを知つた丸市魚市場でもこうした眞面目な人ならすぐ欲しいと早速同市場に採用されて目下働いているが行政整理が生んだ美談として專らの評判となつている

四倉の漁業協組
廿二日頃創立總會

四倉町の漁業協同組合設立氣運も最近ようやく高まり鈴木常松氏が設立發起人となつて四日午後一時より漁業會樓上に四倉機船底曳、サンマ棒受漁業協同組合設立準備會を開いた、同組合は二十六名を以つて講成し二十二日ごろ創立總會を開催する豫定になつている

新歸還者歡迎の座談會
十四日開く

新發足したソ聯地區歸還者連盟では來る十四日午後一時から地方事務所會議室に新歸還者十五名留守宅二十五名、その他關係團体代表を招き歡迎懇談會を開くが、要領は抑留地に於ける生活狀況及び殘留同胞の動靜、歸還後の感想と將來の希望等で非常に有意義な集いである

常磐三連勝
炭礦野球豫選

全國炭礦野球東部豫選は六、七日の兩日平商平工兩グランドに十四チーム參加のもとに開催各チーム炎暑の中によく敢斗したが結局常磐炭礦が2A對1で古河炭礦を破り三年間連勝し榮の優勝旗と賞品が授與され豫選の幕を閉じた、成績次の通り

▽準決勝戰

大昭	0000000	0
古河	036000A	9
常磐	0020002	4
大日本	1000000	1

▽決勝戰

古河	00010000	1
常磐	0010001A	2

（古河）佐藤－小川（常磐）戸塚－永塚

列車でスラる

好間村字惣滑西正正子（三七）さんは五日常磐線列車で時價二千円相當のハンドバックと現金五百円をすられた

天眼鏡

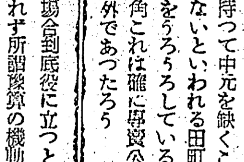
專賣公社平出張所では七夕商品等を當て込んで一擧に大量のタバコを賣り捌こうと先月末から自由販賣品をどつと市井に流し込み或いは贈答用容器を無償で配るなどサービスにこれ努めたが、七夕も濟んで舊盆が近附いた今日さつぱり最初の計畫通り行かず『捕らぬ狸の皮算用』に終るのではないかと首をかしげている、原因はと言えば相變らずの金詰りが祟つたものでもう一つタバコは金さえあれば何時でも何處でも買えるもの、それより金があつてもちよつと買えない所謂統制內の物の方が相手を喜ばし功德もあると言う譯で東京在の闇の御定連が純綿のタオル、手拭、足袋等を持つて中元を缺くことの出來ないといわれる田町の紅燈街をうろうろしているとか兎に角これは確に專賣公社の意表外であつたろう

御商談に!! 小宴會に!!
心地良い御座敷が用意してあります
是非御利用下さい
輕飲食 喫茶 湖月
平市田町 電一〇七二番

賣り物
ニッサン貨物自動車
一九三九年型ガソリン車
御照會は電話五九二番へ

水郷植田海岸
豪快な地曳網
御申込は二、三日前に
◇…御電話は植田驛前若松屋旅館【五三番】へ
植田町海岸 鮫川誇揚會

石炭の御注文には
『常磐石炭』を御利用願います
本社－平市驛前（電八〇五、一二七）
常磐石炭販賣株式會社
東京事務所 東京都千代田區丸ノ內二ノ一〇 三菱十四號館
仙台事務所 仙台市小田原車通り八番地

シンガーミシン
純正保證中古出物
家庭用至急賣却

大和屋商會
平市田町大通 驛ヨリ西へ一丁

宅地家屋賣買物多
龜田屋商會
平市三丁目

◎8日より◎お盆興行
大江戸と変化
映畫は大映
世界館

優秀な專門コックが入りました
御試食願います
出前も迅速に致します
◎…多少に拘ず御注文願います
喫茶と輕食
ブラジル
平市署通り 電一七六

怪談と實話
お化の正体（上）

大森 勇

狐 火

大正元年十一月頃のある日、雲が低く小雨が降り出した夕方の事であつた。谷川瀬一面に丁度提灯行列の樣に何千何百の明りがついた。その頃は平市は未だ平町で、大町も仲町も十五丁目もなかつた頃で私の家の裏は田圃だつたので裏に出ると一物の遮るものもなく谷川瀬山は裏庭の樣に見えた。狐の嫁入りだ／＼と大騷になつて吾れも吾れもと裏に出た。私も出て見たが、何千何百と數え切れない程の紫色を帶びた赤い光が明滅する美觀は、嘗つてこの世に存在した最も美しきものの一つだと思つた。之は世に所謂狐の嫁入であつたのだ。狐の嫁入に對して單純な狐火がある。之は火は一つで大正の頃よく谷山瀬山で見られた。秋の頃などよく虫探りの火と間違う事があるが、狐火の方は紫色を帶びた赤色で所謂妖色であるから、少し馴れれば間違う事はない。狐の嫁入の正体はわからないが、狐火の正体はわかつてくる。親狐が子狐を連れて餌をあさつて里に下つた時、親狐が呼吸を吐くと其處が明るくなる。その明りをたよつて子狐が蛙や小魚などを取つて食うのである。それが遠くから見ると狐火に見えるのである。之は小島の加藤丈夫君が二、三回目擊した事によつて明かである。その他二、三目擊者がある。また狐が骨をくわえて疾走すると、妖色を帶びた赤い光が徘徊してくる樣に見える。之は私自身が目擊したので、今でも目を閉ぢると狐の恰好や骨の恰好が眼底に浮んで來る。犬や猫ははしやいで來ると餌物をくわいて馳け廻る事である。人間でも豐年万作の年にはおどり狂う。私も若い頃月給を貰つて家に歸ると月給袋をかざして家中を馳け廻つた事があつたものだ。この種の狐火は、骨を見付けた嬉しまぎれの狐が豐年おどりをおどつてるのであるまいか。然してその狐は年を取つた老猾な狐でなく、年の若い狐ずれのしてないきつねの仕業だろうと思われる。

火 玉

明治の頃の古い話だが、東北のある町に山川屋と云う小間物屋があつた。夫婦共に丹精で主人公は朝暗い中に起きて小間物箱を背負つて行商に出て夜も遲くなつてから歸つて來る、おかみさんはささやかな店を開いてお愛想よくお客さんをもてなして賣上の錢勘定をし乍ら夫の歸りを待つてる。外出して便意を催しても出來る丈け我慢して我が家に歸つてから用をたす。何となれば肥料にして賣ればいくらかになるからである。一にも錢二にも錢、義理人情などは常に四捨五入して、ろくに食う物も食わないで溜めた程に年年歲々財産は幾何級數的にふくれ上つた。何年かの後にプロがブルになつた。そして三階の土藏を造つて押しも押されもせぬ山川屋になつた。處が食う物もろくに食わないで働き過ぎたのが原因で主人公は肺病に犯された。初めの中は醫者よ藥よと介抱されたが、段段永びくに連れて、飽きられて、邪魔にされて、最後には虐待された、その上おかみさんは男をこしらえて隣近所を憚からず淫樂に耽る樣になつた。山川屋のおやぢさんは土藏の三階に押し込められて飯も食されぬ相だの、うなり聲が土藏の下迄聞えたの死んだら土藏の三階に幽靈が出るだろうなどと、寄ると觸るとこんな話で持ち切る樣になつた。こんな噂の亂れ飛んでる頃のある夕方、闇が街に流れて、山川屋の土藏も夜の帳に包まれた。突然三階の窓から火の玉が飛び出した。その頃私は未だ子供だつたので火玉の色は如何であつたか何方に流れて何處で消え失せたか注意しなかつたが、見たのは私の外に四、五人あつたので間違はない。おやじさんはその夜死んだのであつた。その後三回も火玉を見たが、どの場合も亡靈があの世に行きかねてる樣な境遇の人人であつた。火玉の正体は何だかわからぬが、執念深い人が虐行されて死ぬ時、怨恨の情とうなり聲がある割合で化合した時起る摩訶不思議な現象であると思う。

雨の降る夜火玉に追いかけられる事がある。馳けると火玉も一所に馳ける。踏むと火玉が四散する。之は燐光である事は容易に想像される。山鳥が飛ぶと火玉になつて見える事がある。私も見た事があるが朧氣に鳥の形が見えるし火の色も妖色を帶びてないので本當の火玉と區別される。火柱は昔から云い傳えられて推古天皇の御代の記録にも載つてる。火柱が立つと大火の前兆だと流言蜚語が飛んで恐れられたものだ。芳賀矢一氏の言泉には燐の作用だと書いてあるが電氣作用である。金色燦たる光り玉がお空から眞直に落下して來る事がある。昭和四年の舊盆十三日の夕方、佛樣を迎えに行く善男善女で菩提院の坂が埋められた。突然南の空がパッと明るくなつたので見たら、握拳大の光り玉が金色燦然と光り輝いて、お空の高い處から眞直に落下して、中空で消え失せた。私が幼少の折同じ樣な光り玉を見た事がある。その時は電光が超時間的の速さで空中に久の字を畫いて物凄く光つてる晩であつた。この光り玉はいん石の樣にも思われるが、凄い電光の後に現われた事より推定すればやつぱり電氣作用だと思われる。

龍 燈

廣文庫に次の樣に書いてる。柳庵隨筆東南紀行、府城（岩城平）の西二十里阿伽井嶽あり、毎夜燈の如きもの來る有り、俗に之を龍燈と云う、余嘗親しく之を觀るに、初昏星を藏する時、四倉海上、火光浮び出づ、竈川及溪水をしき此山麓に至る、飛びて大杉の梢に憩る、又森中に飛入して見えず、又續いて來る者亦然り、海より杉に至る。火點累累、相追うて昏より曉に至る其數幾許なるを知らず、凡そ月夜は則ち光微にして、暗夜に即ち螢の如くコの如し、蓋陰火也、但し此火此山岬燕石上に坐す。他處より之を觀れば、一點の光影なし、亦奇也柳庵と云う人が余嘗つて親しく之を觀るにと書いてあるから實際見たので、平に來てその當時の新田町あたりで一獻かたむけ乍ら、聞いた話を見た樣に書いたのではあるまいかと思うが、私の見た龍燈はこゝに書いてある樣なものではなかつた。

更張り振わぬボーナス

今年のお盆の懷工合はどうか某大炭鑛會社では酒肴料の名儀で平均七百円、最高二千円（二十年勤續）最低百円、市內某銀行でも同じく五百円から千円某交通會社では女子に二千円、男子三千円と一律に支給、某製銅所では平均四百円の酒肴料とし某役所では各課別に異つているが女子平均三百円、男子中堅どころで五百円、課長級が千五百円を手當として支給したと云つているほか官廳關係は一錢も出なかつた

『ボーナスの出ない年』とあつて商店界も一向に振わず銀行窓口に聞く金の動きはさつぱりない、『舊盆資金として本店から金を取りに來るように言われていたが取りに行く必要もない程普通と變りがない、これは七夕祭で町に落ちた金を預金せずに盆の費用に當てゝいたためだ』と銀行員が語つていた

四名は元の職場へ
祖國再建へ引揚者續々就職

引揚者再開以來五日迄平市では既に十數名の歸還者を迎えているが彼等は久方ぶりに肉親の暖い抱擁に包まれ心行くまでの感傷にひたつたのも束の間元の職場に或いは新しい職場に祖國再建の意氣に燃えて起ち上つて居り現在迄五丁目の小野寺邦夫君は佐川洋服店へ正月町の荒木好美君は元職場の國鐵平機關區へ、又月見町の川澄重彌君は同じく吉件工場へ、北目町の鈴木源一君も同じく平郵便局へ夫々就職が決定近く各職場に乘出すことになつて居り、更に前記四名以外の人々に對しても民生委員が主体となつて優先的に各方面へ斡旋中であり失職の嵐の中にも愛の運動は益々強力に展開されている、なお新發足した『ソ連歸還者生活擁護同盟』では近く新歸還者歡迎及び留守宅慰問を兼ね抑留地の生活状況及び殘留同僚の動靜を聞き更に日本の現實を正しく紹介するための懇談會を開くことを計畫している

眞野古墳群第三次發掘調査報告（中）

福島縣學生考古學會會長 成田克俊

それが眞野古墳群第一次調査であるが、之の報告は、史談會の根本忠孝、菊地展雄の兩氏によつて紹介されて居るので述べない。

B、第二次調査

昭和二十四年一月二、三日の兩日、明治大學後藤教授森史蹟國寶調査員梅宮茂氏の指導で相馬史蹟保存會、福島師範學校歷史研究會磐城高等學校相馬高等學校で發掘調査をしたので之の兩日に亘つて調査した古墳は中軸の長さ二十八米で周りようのある前方後円墳で古墳番號は百拾壹號墳と命名されて居るものである

之の古墳は前記の川俣方面に通ずる道路の南方にあり昭和二十二年秋、慶應大學の手で發掘調査されたが遺物の發見がなく放棄されたものであるが、附近の人々が封土を墾土に利用して居つたので封土が崩れれき室の一部が露出したので調査を始めたものであるがその結果今より一千四百年前の推古朝のものと思われる。

遺物は、金銅製双魚たい一直刀八、クツワ一式鉾と思われるもの一、鐵斧一、鐵鏃多數を出した。之れまでの學說によると前方後円墳は後円部より遺物が出土し、中央の括れ部よりは遺物が出土しないと云われて居つたが、之の百拾壹號墳は中央の括れ部の二米下に河原石を三米平方に積み重ねたれき室があつて木棺と思われるものの周圍に前記の遺物が埋葬されてあり金銅製双魚たいの出土について國學院大學教授大場磐雄博士は『今迄金銅製双魚たいは滋賀縣と千葉縣の木更津市より出土したが眞野古墳のと日本では三つしかない故考古學上誠に貴重なもので之れによつて今より千四百年もの昔、眞野地方に相當高度な文化があつたと考えられる又金銅製双魚クツワは腰帶から垂下げる装飾品であると學界に於ては考えられて居つたが今度の眞野の出土より馬具の一部ではないかとの新しい說も考えられる』と云われて居る

C第三次調査

全國に二つしかなかつた金銅製双魚佩が眞野古墳群より出土したので慶應義塾大學として再調さの計畫を立てる事になり、七月二十日より二十六日までの一週間に亘り第三次發掘調さをする事に決定之の旨縣史蹟國寶調さ委員會に連絡があり、同委員會より福島縣學生考古學會に之の旨連絡があつたので相馬史蹟保存會の大內東春氏等と共に協力調さをする事になり二十日よりの發掘に縣學生考古學會磐城、双葉、相馬、福島、郡山支部から約七十名が參加した

七月二十日慶應義塾大學より松本信廣教授淸水潤三講師江坂輝彌氏東北大學からは伊東信雄教授小野力先生が來縣され八十名の調さ隊が結成された

第三次の發掘は百廿五號墳は百拾壹號墳と同樣昭和二十二年度秋慶應義塾大學で發掘したが遺物なく石榔なしと放棄されてあつたもので一重の周りようがあり、りようの幅六十センチ深さ四十センチで中軸の長さ二十五米後円部十七米前方部八米、中軸線の方向が東方を向いて居り後円部の高さ二米二十五センチ前方部一メートル二十センチの大きさで後円部の中心と前方部の中心と前方部のちゆう心が昭和二十二年約三米堀り下げられたが一片の遺物の出土がなかつたもので、百拾壹號墳の南西にあり百拾壹號墳は百拾五號にくらべて中軸の長さも大きく中軸線の方向も形狀も似て居り兩者間に何等關係があるだろうと考えられた

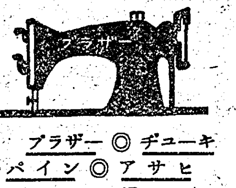
百拾壹號墳の出土品を見ると直刀鐵ヤヂリ馬具などで男子を表わして居る。之に比して百拾五號墳は百拾壹號の墳主の妃と思われ鏡玉などの出士を期待し、昭和二十二年度發掘した後円部の中心より幅三米のトレンチを中軸線に沿うて進めた

墳丘より發掘して十センチ下に九十センチの茶色土層に至り墳土下一米にして天井石に達した

放射線科 内科 谷口（ヤグチ）醫院 平市一丁目橋 電一〇六五番

平市五丁目 ㊇ 釜屋商店 電九・九九・九九九

月賦ラジオ 御遠慮ナク御相談下サイ 上原時計店 平市白銀町（電22） 平驛降リテ左へ四軒目

石川商會ミシン部 平市一丁目


ブラザー◎デューキ パイン◎アサヒ 外輪出一級品

カメラ 材料一式 修理迅速 美鈴 田町驛前通 電561

服装相談の店 夏のアラモードは是非… アザミ美裳店 平市南町成田山隣 TEL1019

夏の…… 男子用 女子用 白靴 白靴 靴は菊一へ 平三 電四四六

藥品一般 小野屋藥局 平郵便局隣 電一四四番

萬年筆 ボールペン 一〇〇圓均一 特賣中 岡萬年筆店 平市三丁目 電三九九

◇衣服の御手入は土用の虫干に 防虫劑 日脳 玉ナフタリン モス脳 日脳錠 便所衛生 片脳油 六六六 雪プロリン 花プロリン 平市田町銀座 あこう藥局 電話四四番

實と趣味と益 カナリヤ チャボ 諸鳥全般 美術籠類 附屬品一式 エサ ◇…飼鳥の御相談を喜んで致します 平市公會堂前 橋本小鳥店 一番親切で信用のある

金融と買入 平市大町通り 鈴木質舗

御中元 御贈答に 御茶が 喜ばれます 茶舗 山登園 平市大町通り 電五三〇

大衆の寫眞 一組四十円より ハヤシスタジオ 田町 並木通り いわき民報社前

三浦商會 平市平和通り 電話八六四番 斯界の王座 コントロールミシン 蛇の目 ミハト リッカー ニッポン ミシンのミウラ

衣料品 呉服と洋品有名化粧品と小間物 雑貨 レコード樂譜樂器と 附屬類雜誌 平市四丁目 電268番 山吉商店

設計と建築 平建設興業株式會社 仲町六（電一〇六六番） 社長 金古政通 專務 片寄傳右衛門